

(7) 法と政治教育部会

教育部会名	法と政治
部会長名／作成者名	行澤一人
概 要 (2 ページ)	
1. 部会構成, 実施体制	
<p>当部会は、以下に見る年間19コマの基礎教養科目(各1単位)と、年間19コマの総合教養科目(各1単位)を担当した。基礎教養科目としては、「法学A」「法学B」(それぞれ6単位, 4単位)と「政治学A」「政治学B」(それぞれ4単位, 5単位)が、総合教養科目としては「政治と社会」(7単位), 「社会生活と法」(6単位), 「国家と法」(6単位)の3科目がそれぞれ開講された。これら基礎教養, 総合教養科目は、その科目の性質上, 法学部が要件外指定学部とされているが, それ以外の学部の学生全てに開かれており, 本年度(令和3年度を指す。以下同じ)も従来通り相当数の学生が, それぞれの科目を受講した。全38単位について, 部会構成員間での担当内訳は, 国際文化学研究科所属担当者が14単位(内非常勤講師担当分6単位), 人間発達環境学研究科所属担当者が6単位, 法学研究科所属担当者が8単位, 海事科学研究科所属担当者が8単位(内非常勤講師担当分4単位), 国際協力研究科所属担当者が2単位であった。上記の他に, 教員免許資格のための科目である「日本国憲法」(2単位)は, 国際教養教育院の費用負担による非常勤講師の開講科目となっている。</p>	
2. 実施状況について	
(1) 本年度の工夫, 改善点など	
<p>本年度についても, 新型コロナウイルスの拡大防止のため, 前年度に引き続きオンラインによるリモート授業が標準となった。ことに法と政治教育部会の提供する講義は, 基礎教養科目, 総合教養科目とも, 原則としてリモート授業によって実施され, かつリモート授業としては, 国際教養教育院の方針で, 原則, オンデマンド型で実施された。</p> <p>ただし, 本年度, ピアレビューとしての授業参観対象となった竹内真理教授の授業については(法学A・5月27日1限実施), 予め録画した50分程度の動画を予習課題として予め視聴させ, 授業当日はリアルタイムのZOOM授業(1時間程度)によって, チャット機能を活用した質疑応答を行うなど, 双方向性を重視した授業が展開されており, オンデマンド型とリアルタイム型を組み合わせた大変意欲的な取り組みがなされていた。ピアレビューの結果も大変良好であり, 特に法と政治部会所属教員においては大いに刺激を受けたところである。</p>	
(2) 現状と評価	
<p>リモート授業が標準となる中で, ある意味では各教員がそれに習熟してきており, BEEFなどを活用した授業の双方向性を高める工夫が全般的になされていたことは評価すべきである。ただし, オンデマンド授業を準備するにあたっては, BEEFの通信容量上の問題により, 動画による映像資料等を直接貼り付けることができないほか, 音声付きのパワーポイント資料の利用にも一定の制限が生じるなど, 種々の問題があった。それゆえ, 例えば, YOUTUBEによって作成した動画のURLをBEEFに張り付けるなどの工夫がなされていたが, できればBEEFの容量上の制約を大幅に緩和するなど, システムの大幅な改善が望まれるところである。この点, 例えばGOOGLE CLASSROOM(GC)を利用すれば, 容量上の問題は原則としてクリアされるが, 特に全学共通教育科目についてはGCの普及度合が低く, ほとんど利用されていないため, BEEFと併用せざるを得ない結果, かえって混乱を来し, 手間も余計にかかるという状況であった。BEEFの容量制限の大幅な改善が当面期待できないのであれば, その代替策として, GCやTEAMS(マイクロソフト社提供)など, サードパーティーのシステムを有効かつ安全に利用できる体制を全学共通教育においても積極的に整備することなどが考えられてよいのではなかろうか。</p>	
(3) 開講科目, カリキュラムなど	
<p>具体的には現代社会における法と政治の機能や役割について, 下記のように多岐にわ</p>	

たる視点や問題関心から、各研究者の研究成果なども反映された多様な講義が行われた。

政治分野においては、格差や労働問題と民主的政治参加の課題、近代の政治思想、現代アメリカを素材とした基本的な政治学の基礎概念、国際政治の基本的視座、エネルギー政策に関わる種々の政治的課題の総合的・国際的・複合的な検討、イスラーム社会を例として文化の多様性の尊重とメディアに流されずに自分で考えることの重要性、戦後の国際秩序の枠組みと国際協調の必要性、などについて講義が行われた。

法学分野においては、日本国憲法を中心とした法学の基礎知識、法の支配を基軸とする近代法の諸原則、憲法・民法・刑法の著名な判例を素材とするケース・スタディ、国際法の成り立ちや特徴を知り、国際平和を法的に考えること、国際的時事問題を通して見る国際法の基本的規則、デジタル・トランスフォーメーションと労働法の在り方から、将来起こり得る様々な法的問題を探ること、法学の基礎知識、日本の裁判制度の概要、日本の主要な法における諸原則、などについて講義が行われた。

以上、法と政治教育部会が提供する講義メニューは、法学部生以外の学生にとって、法学・政治学上の基礎的素養を十分涵養し得るものであり、また現代性・国際性を意識したトピックもふんだんに扱うものとなっている。

3. 課題について

(1) 本年度は、すでに述べた通り、法と政治部会が全学共通教育授業科目におけるピアレビューを受けており、本部会所属教員の半数近くが対象授業を参観した。またこれに対するコメントや質疑応答などのフィードバックも積極的になされ、教員各自がコロナ禍においてもリモート授業をより良く改善していこうとしていることが感じられた。その意味で、コロナ禍という非常時におけるFDとしては、ピアレビューを十分うまく活用できたように思われる。

問題は、今後、正常化が図られ、対面授業が前提となっていくときに、過去2年間で得られたオンライン授業の実施にかかるFD上の成果が、必ずしもそのまま生かされないということである。もちろん、コロナ禍を前提としない、より積極的に教育効果を高めるものとしてオンライン/リモート授業が実施される中で、これまでのFD上の経験を生かすことができるのはその通りであるが、例えばハイフレックス（あるいはハイブリッド）授業の実施ということになると、それはそれで別の新しい課題が存在し、新たに工夫すべき問題点が種々浮上してくる。したがって、今後も、その時々が必要とされる新たな課題に対処すべく、教員相互間の不断のFDが欠かせないものと思われる。

(2) 本部会では、令和4年度以降、新たな部会長を、人間発達環境学研究科から毎年1名ずつ選出することになったが、令和6年度以降、部会長・幹事人事を含む部会運営に係る所属研究科間の負担をどう調整していくかにつき、この間検討を進め、成案を得るべきことを確認している。

4. 総合所見

全体としてみれば、本教育部会の運営と教育活動は、概ね問題なく運用されていると判断できる。そして、今後の検討課題については、更なる部会内の検討が期待されているところである。

A 組織構成と運営体制について

①基本的な組織構成が適切であり、実施体制・運営体制が適切に整備され、機能しているか（100字程度）

令和3(2021)年度の「法と政治」教育部会は、国際文化科学研究科4名、人間発達環境学研究科3名、法学研究科4名、海事科学研究科2名、国際協力研究科1名の教員14名（本学常勤教員）から構成され、部会長1名、幹事1名で運営された。当部会は構成員の所属部局が複数にまたがっているものの、部会の円滑な運営を促

進するため、Eメール,ZOOM を利用したミーティングなどを活用することで、部会運営に関わる部会構成員間の意思疎通を図ることができた。

根拠資料

教育部会構成員名簿、部会回覧用メール,ZOOM 録画

B 内部質保証について

- ①学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的に行っているか（100字程度）

学生からの授業振り返りアンケート結果や、評価・FD専門委員会等国際教養教育院からの検討要請や意見については、適宜、部会構成員にフィードバックを図り、必要に応じて個別的な意思疎通を図っている。

根拠資料

授業振り返りアンケート結果、部会回覧用Eメール

- ②自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか（150字程度）

本年度は、法と政治部会としてピアレビューを行っており、対象授業への参観には、本部会の構成員の半数近くの方が参加し、フィードバックも活発になされるなど、充実したFDが実施された。そこでは、リモート授業における双方性の確保という従前から指摘されていた課題に対する一定の解決策が提案されており、課題の改善について一定の進捗が確認されている。また、各教員によって、シラバス上、今年度の講義において取り組まれるべき工夫が示され、その成果の如何が授業振り返りアンケートにおいて評価されている。

根拠資料

前年度までの自己点検・評価報告書、ピアレビュー意見交換会に係るメール及びZOOM記録、シラバス（今年度の工夫）、授業振り返りアンケート結果

- ③授業の内容及び方法の改善を図るためのFDを組織的に実施しているか（100字程度）

本年度は、法と政治部会としてピアレビューを行っており、それに対応して、組織的なFDが実施された。

根拠資料

部会回覧Eメール、ピアレビュー（授業参観）実施に関するガイドライン、ピアレビュー実施科目一覧（国際教養教育委員会資料）

- ④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるとともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか（100字程度）

本年度も、リモート授業が中心となったため、SA/TAの実際の利用実績はごく限られたものであったが、採択されたSA/TAに対する必要な研修等についてはガイドライン等のルールに従って適切に実施されている。

根拠資料

神戸大学SA/TA実施要領・ガイドライン、SA・TA採用者名簿、TAハンドブック、令和元年度「国際教養教育院におけるTAの採用について」

C 教育課程と学習成果について

- ①当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっているか（100字程度）

本部会が開講する授業は、法学分野においては、近代法思想、法学概論のほか、憲法、民法、刑法、労働法、国際法などの基本法及び司法制度などを対象としており、その授業目標は「複雑化する現代社会において主体的市民として生きるための法学の知識・方法・理論」の学びを提供するものとなっている。政治分野においては、授業において、政治思想、民主主義、政治経済論、政治と宗教、国際関係論などを取り扱っており、その授業目標は「能動的な政治的主体に求められる、政治を知りそれを生きる知識・理論・方法」を教授するものとなっている。また多くの授業が、国際性（グローバルイシュー）や多文化理解などをキーワードとした目標を設定しており、総合教養科目の学修目標に対応するものとなっている。

根拠資料

シラバス、全学共通授業科目の学修目標

②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか（100字程度）

共通目標や学部からの要請は部会構成員によって共有されており、それに十分配慮した到達目標が設定されている。

根拠資料

シラバス

③授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか（100字程度）

本部会担当教員の授業は、共通目標を十分具体化する授業ごとの到達目標を設定し、かつそれぞれに展開される授業は当該到達目標を達成するに十分なものとなっている。

根拠資料

シラバス

④単位の実質化への配慮がなされているか（100字程度）

クォーター末に実施される最終試験・レポートによる成績評価にとどまらず、多くの科目において、各種中間的に実施されるレポートやエッセイ、それに授業後に学生からの提出を求めるコメントペーパーなどを成績評価資料としており、単位の実質化に向けた努力がなされている。

根拠資料

シラバス、クォーター末試験／レポート、中間テスト／レポート／エッセイ

⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか（150字程度）

講義内容の特性に応じて、授業中にオンラインにて映像資料を提供したり、事前の動画視聴を求めつつ当日のリアルタイムオンライン講義では教員との対話や質疑応答を試みるなど、それぞれの工夫が見られた。また BEEF を活用して資料配布を行ったり、フォーラム機能を活用して質疑応答の機会を設けるなど、できるだけ双方向的授業が実現される努力もなされていた。

根拠資料

シラバス、BEEF

⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前・事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか（50字程度）

全科目において、シラバスに求められる必要事項が記載されていることを確認した。なお、新型コロナウイルスの流行状況の推移に伴い、対面の予定が急遽リモート授業主体に変更されるなど、実際にシラバス記載と異なる扱いをせざるを得ないことがあったが、その場合でも、BEEF 上に必要な修正がなされていることを求め、その旨の確認を行った。

根拠資料

シラバス, BEEF

⑦学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか (100 字程度)

シラバスや BEEF においてメールアドレス等連絡先を公開することを推奨しており、さらにメールや BEEF のフォーラム機能等を活用して、できる限り学生に対する適切な履修指導がなされるよう部会構成員間に対する助言がなされている。

根拠資料

シラバス, BEEF

⑧学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか (100 字程度)

メールや BEEF のフォーラム機能の活用などにより、できる限り学生の学習相談に応じよう部会構成員間に対して推奨、助言がなされている。

根拠資料

シラバス, BEEF

⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか (100 字程度)

本年度における法と政治部会においては、ほぼすべての授業科目において、秀、優を認定した割合が当該基準に合致していたことを確認している。また、わずかに当該基準にずれた場合でも、担当教員に個別にメールにて照会、確認を行っている。

根拠資料

シラバス, 試験答案, 成績分布 (国際教養教育委員会資料), 部会構成員回覧メール

⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか (100 字程度)

得られている。本部会の本年度前期・後期における「授業振り返りアンケート」において、ほとんどすべての科目で【設問 3】(到達目標の達成度)に対する「十分/ある程度達成できた」の回答率が 5 割を超え、また多くの科目で 7 割程度以上の高い割合を示していることから、それは伺える。

根拠資料

試験答案, レポート, 令和 3 年度前・後期 授業振り返りアンケート結果